

古堤街道を往く⑧  
「聖徳太子堂と太子信仰」

東諸福公園近くに架かる大東大橋から300メートルほど東に進むと、左手に聖徳太子堂が見えてきます。ここには、江戸時代後期の作といわれる、高さ32・8センチメートルの聖徳太子の木像が安置されています。

右手に柄香炉という仏具を持ち、左手で袈裟の先をつかみ祈りを捧げるしぐさは、太子が16歳の時、父の用明天皇の病氣回復を祈願する姿を表した「孝養像」と呼ばれる最も一般的な形式の像です。中世以降、庶民の間に聖徳太子信仰が広まるとともに各地でこのような像が作られました。大東市内では、野崎にある専応寺にも南北朝時代の作といわれる孝養像が安置されています。

太子田地区では、太子講という信仰組織を中心に聖徳太子信仰が古くから盛んでした。太子信仰に関係すると思われる「太子田」という地名は、天正12年(1584)の「河内国御蔵入帳」に「たいしてん」と出てくるのが初めてで、安土桃山時代にはこの地で信仰が定着していたことがうかがえます。

太子堂の敷地内に「善根寺」と刻まれた石碑が立っています。かつてこの付近に善根寺という寺院があり、太子像はそこに安置されていたとい



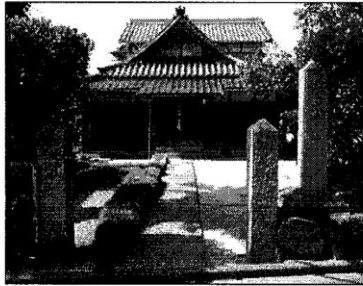
「善根寺」と刻まれた石碑



太子孝養像

した。善根寺が明治6年(1873)に廃寺となると、その後しばらくの間は近くの明福寺で安置されていたが、大正10年(1921)、聖徳太子の逝去から1300年を記念して、信者らが浄財を募り聖徳太子堂が建立され、ここに太子像がまつられました。現在太子堂は明福寺が管理しており、毎年4月には地元の人々が集まり法会が営まれています。太子信仰は聖徳太子堂を拠点に今も継承されています。

次回は、聖徳太子堂の東側に立つ、太子田の氏神・大神社を紹介します。(生涯学習課)



聖徳太子堂

古堤街道を往く⑨  
「太子田の氏神・大神社」

聖徳太子堂を出て東側の道路を越えると、太子田地区の氏神・大神社に着きます。祭神は天照大神で、毎年10月20日に祭礼が行われています。拝殿には彩色された松皮葺きの本殿が安置されています。伊勢神宮と同じ神明造りといわれる様式で、高床式左右対称の構造となっています。本殿の前に鎮座する二体の狛犬の台座には、「文政十亥九月吉日(1827年9月)の年号が刻まれており、本殿もこの時に造られたことがうかがえます。境内には高さ約20メートルのこの神木のイチヨウの木があり、樹齢25年以上といわれていることから、神社の創建はその頃までさかのぼるものと考えられます。

境内の敷地はもともと現状より低く、諸福天満宮のように古堤街道から見下ろせる場所にありましたが、戦後に盛土され、昭和38年には拝殿の階段・石垣が設置され、現在のような景観となりました。

本殿を覆う拝殿は、昭和53年に見つかった棟札から「文久三癸亥菊月(1863年9月)の建立であることが分かりました。拝殿前の燈籠一対もこの時に奉納されたものです。拝殿の



ご神木(大東市保護樹木第14号)

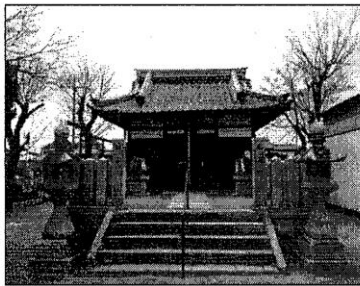
中に入ると、源平合戦や楠木正成・正行親子の「桜井の別れ」など、神話や歴史上の名場面を描いた多くの絵馬が飾られています。そのうちの



「天の岩戸開き」の絵馬

一つ「天の岩戸開き」は、拝殿建立時に地元の中村氏から奉納されたもので、幕末に大坂で活躍した絵師・吉川晋光の作品です。

ところで、大神社と聖徳太子堂の間の道路はもともと寝屋川と周辺の農地を結ぶ水路となっており、かつて神社の西側には船着き場が設置されていた。次回はこのような太子田地区と水との関わりについて紹介します。(生涯学習課)



大神社の拝殿